



平成27年8月11日

各 位

会社名 東洋炭素株式会社
 代表者名 代表取締役社長 野網 明
 (コード番号：5310 東証第一部)
 問合せ先 執行役員財務経理部長 坊木 斗志己
 (TEL. 06-6472-5811)

(補足資料) 第2四半期累計期間の連結業績予想値と実績値との差異
 および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成27年8月10日に公表いたしました「第2四半期累計期間の連結業績予想値と実績値との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」につきまして、下記のとおり補足説明いたします。

記

1. 平成27年12月期第2四半期累計期間の連結業績予想値と実績値との差異 (平成27年1月1日～平成27年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	18,000	1,200	1,200	900	43.41
実績値 (B)	17,673	353	499	387	18.70
増減額 (B-A)	△326	△846	△700	△512	—
増減率 (%)	△1.8	△70.5	△58.4	△56.9	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成26年12月期第2四半期)	17,070	585	530	914	44.09

2. 平成27年12月期の連結業績予想数値の修正 (平成27年1月1日～平成27年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	37,000	2,900	2,900	2,100	101.28
今回修正予想 (B)	36,000	1,100	1,100	700	33.76
増減額 (B-A)	△1,000	△1,800	△1,800	△1,400	—
増減率 (%)	△2.7	△62.1	△62.1	△66.7	—
(ご参考) 前期実績 (平成26年12月期)	34,066	1,140	1,501	1,327	64.02

3. 差異および修正の理由

【売上高】

第2四半期会計期間

伸長を見込んでいたSiCコーティング黒鉛製品、工業炉用製品、機械用カーボン製品等での売上高が計画未達となったため、売上高は前回予想値に対し3億円の減少となりました。

第3四半期以降

SiCコーティング黒鉛製品、工業炉用製品、機械用カーボン製品等の売上が引き続き当初計画を下回る見込みとなるため、第3四半期以降の予想売上高は前回予想値に対し7億円の減少となりました。

通期

以上により、通期の予想売上高は前回予想値に対し10億円の減少となりました。

【営業利益】

第2四半期会計期間

為替によるプラス要因0.5億円があったものの、売上高の減少に伴う限界利益の減少(1.5億円)、需要の変化に伴い製品販売構成が変化したことによる外注加工費等の一部製造費用の増加(2.7億円)、米国子会社の収益性改善費用の発生(1億円)、海外向けの販売促進費用等の販管費増加(1.2億円)、および期末において発生した海外子会社における在庫評価減や在庫未実現利益消去の計上(2.6億円)によるマイナス要因合計9億円が発生し、経費削減効果や海外子会社経営改善効果の発現が僅少であったため、営業利益は前回予想値に対し8.5億円の減少となりました。

第3四半期以降

固定費削減によるプラス要因1億円を見込むものの、売上高減少による限界利益の減少(3.5億円)、第2四半期での製品構成の変化継続による製造費用の増加(4.5億円)、在庫や為替変動の考慮(1.5億円)、および海外向けの販売促進費用等の販管費増(1.0億円)により合計10.5億円のマイナス要因が想定されるため、第3四半期以降の予想営業利益は前回予想値に対し9.5億円の減少となりました。なお、経費削減効果および海外子会社経営改善効果は、当第3四半期後半に徐々に発現するものとみておりますが、本格的には来期以降になるものと考えております。

通期

以上により、通期での予想営業利益は予想値に対し18億円の減少となりました。

【当初予想からの変化について】

当初予想においてはLED市場の成長によるSiCコーティング黒鉛製品や一般産業分野における工業炉用黒鉛製品の需要拡大などを見込んでおりましたが、第1四半期時点の修正開示においては、太陽電池分野の需要が想定より低水準であったことなどによる売上高減少や製品構成変化に伴う限界利益の減少、在庫未実現利益の計上などにより、第2四半期累計期間の実績値は、当初予想値に対し売上高は5億円、営業利益・経常利益はいずれも5億円、四半期純利益は4億円の減少を予想しました。この時点におきましては、以降の製品構成の変化やこれに伴う費用、在庫未実現利益等の追加発生を想定しておらず、また、経費削減効果の顕在化や海外子会社の経営改善効果による収益回復を見込む一方、第1四半期での売上状況および関連する市場動向から、第3四半期以降は、売上水準が当初計画値をやや下回る水準で推移する見込みであったため、当初予想値に対し売上高は5億円、営業利益・経常利益はいずれも3億円、四半期純利益は2億円の減少とし、その結果、通期では当初予想値に対し売上高は10億円、営業利益・経常利益は8億円、当期純利益は6億円の減少としておりました。

(注) 上記の予想は、本資料発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以上